

# 外国語～研究討議の記録～

外国語は、研究大会での公開授業が無かったため、校内の提案授業を研究のまとめとして実施した。以下は、授業後の討議のまとめである。

## I 研究討議から ※主なものを抜粋

### 視点1-1 外国語科における6つの資質・能力

- ・6つの資質・能力のうち、重視した資質・能力について、意識して単元が構成されていたと思う。「解決策を構想する力」の育成を意識した1時間だということがよく分かった。

### 視点1-2 短時間学習を活用した単元構成の在り方

- ・今日の授業には現れないが、朝の英語を効果的に活用して、終末のコミュニケーションに生かしていければよいと思う。ぜひ、成果と課題を記録しておいてほしい。

### 視点2-1 コミュニケーション活動への見通しをもたせる指導の工夫

- ・JTEとのデモンストレーションを繰り返すことで、児童は単元終末の具体的なコミュニケーションをイメージできていた。見てほしい、聞いてほしいポイントを示しながら、繰り返していたところもとてもよかった。
- ・児童に聞き取れた語彙や表現を確認しながら進めていて、学習への見通しがもてていたと思う。今回は、ランチが出来上がるという視覚的にも分かりやすい活動だったので、児童は、次時以降に何を学習するのか明確になっていた。

### 視点2-2 意欲的に伝え合うコミュニケーション活動の充実

- ・紀要では、「取り組んでみたい！」と思うような活動を充実させる視点を3点示していますが、一番は、「インフォメーション・ギャップのある活動」が大事だと思っている。コミュニケーション能力の基礎を育成するということを考えると、実際のコミュニケーションには、常にインフォメーション・ギャップがある。だからこそ、相手のことを知りたい、自分が知らないことを知りたい、相手の知らない自分のことを伝えたいという意欲につながるのだと思う。
- ・今回の活動では、「相手が何を、いくつ頼むか分からない」というインフォメーション・ギャップがあった。だから、しっかり聞く、きちんと伝える必要があるということを見ても理解できると思った。また、何のためのランチなのか（内容面での成果）がはっきりすると、児童のさらなる意欲につながったのではないかな。

### 視点3-1 CAN-DO リストの活用

- ・CAN-DO リストの扱いには、まだまだ課題があるが、6つの資質・能力と同じで、意識しないとしないでは、授業が変わる。常に更新していくことが大切である。

(参考資料：小学校卒業時の CAN-DO リストと本単元の CAN-DO リスト)

	No.	小学校卒業時の CAN-DO	本単元の CAN-DO リスト
聞くこと	1	身近なもの・ことを表す簡単な英語を聞いて、意味や内容を理解することができる。	ファストフードを表す英語を聞いて、意味を理解することができる。
	2	簡単な絵本の読み聞かせを聞き、ストーリーの流れや登場人物の特徴を理解することができる。	
	3	どのように答えたらよいかを考えながら、質問を聞くことができる。	
話すこと(やり取り)	4	インタビューやクイズなどのゲームをしながら、身近なもの・ことに関して尋ねたり答えたりするなど、簡単なやり取りをすることができる。	
	5	インタビューやスキットなどをしてしながら、状況に合わせて自分の言いたいことを伝えたり質問したりするなど、簡単なやり取りをすることができる。	自分が食べたいファストフードのメニューを伝えることができる。
話すこと(発表)	6	簡単な挨拶をしたり、自分の身の周りのことについて発表したりすることができる。	
	7	考えや気持ち、感想などを簡単に発表したり質問したりすることができる。	
読むこと	8	アルファベットを音読(発音)することができる。	
	9	身近なもの・ことを表す単語や文を音読(発音)することができる。	
	10	知っている単語や文を読み、意味が分かる。	
	11	簡単な英語で書かれた物語を読み、内容のだいたいを掴むことができる。	
書くこと	12	アルファベットの大文字と小文字の違いや形に気をつけて書くことができる。	
	13	自分の名前を書いたり曜日などの簡単な英語を書き写したりすることができる。	
	14	自分の考えや気持ちを、定型文に合わせて書くことができる。	

### 視点3-2 自己評価の充実

- ・以前までの英語のワークシートと少し変わっているが、どうだったか。
- ・単元が進むにつれて、内容面についても記述が増えてくるとよい。